

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2010年11月17日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

| | | | | | |
|------------|---|-------|--------|-----|-------|
| NUBIC管理番号: | 2008010085 | 整理番号 | 11259 | 担当者 | 井上 典之 |
| 表 題 | タンパク質間相互作用の責任部位を同定し、相互作用の阻害剤をスクリーニングする方 | | | | |
| 技術分野 | 食品・バイオ | 化学・薬品 | 食品・バイオ | 医薬 | |
| 適用製品 | タンパク質間相互作用の定量化、責任部位同定及び当該相互作用の阻害剤開発 | | | | |
| 目 的 | タンパク質間相互作用の責任部位を簡便な定量系を構築して同定し、相互作用の阻害剤をスクリーニングする方法を提供する。 この方法によって例えばC型肝炎ウイルス(HCV)NS4Bタンパク質と他のタンパク質の相互作用を定量化し、かつ責任部位を同定する。さらに当該タンパク質間相互作用の阻害による抗HCV剤開発に資する。 | | | | |
| 技術概要 | 任意のタンパク質AとBの間の相互作用について、以下の工程1～3によって責任部位を同定し、部位特異的な相互作用の阻害薬を探索する(図)。 【工程1】 任意のタンパク質Aをアミノ酸数残基ないし30残基程度の任意の領域に分割する。そのすべての領域について融合タンパク質を作製する(A1～An)。 【工程2】 タンパク質Bを固定し、A1～Anの融合タンパク質を反応させ、結合量を定量することにより、タンパク質A上の相互作用責任部位を同定する。 【工程3】 仮に最も相互作用(結合)の強い融合タンパク質をAxとすると、タンパク質Bを固定し、Axとの相互作用を定量するアッセイ系において、阻害薬を添加し、相互作用に対する阻害効果を解析する。 これを例えばHCVのタンパク質間の相互作用の責任部位の探索、当該部位特異的相互作用の阻害剤を探索するアッセイに応用する。 | | | | |

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

| | | | | | |
|---------------|--|-------|--|--|--|
| 面談希望日時 | | | | | |
| (ふりがな) 氏 名 | | | | | |
| 会社名 | | | | | |
| 所 属 | | 役職 | | | |
| 電話番号 | | FAX番号 | | | |
| E-mail | | | | | |
| 連絡事項 | | | | | |



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp